

桂川・相模川流域協議会 さがみ地域協議会事業

“多摩川カワラノギクプロジェクト現地見学会” 参加報告

桂川・相模川流域協議会市民会員 中門 吉松

1. 日時 : 平成 26 年 10 月 26 日 (日) 9:00~14:30
2. 場所 : 多摩川福生市永田地区 (永田橋上流)
NPO 法人 自然環境アカデミー カワラノギク保全活動区域
3. 参加者: さがみ地域協議会 (4 名)、相模川湘南地域協議会 (4 名)、一般 (1 名)
「カワラノギク」を守る会 (2 名) 山梨県事務局 (1 名) 合計 12 名
…多摩川永田地区での活動参加者 総員 55 名
4. 現地見学・交流会内容

(1) “NPO 法人 自然環境アカデミー” カワラノギク保全活動参加と交流

9:00 海老名駅集合しマイクロバスで現地に向かう。(帰着: 14:30)

「カワラノギクを守る会」の皆さんは電車で直接現地集合する。

海老名 IC から圏央道に入り 6 月 28 日 (土) 開通した相模原愛川 IC~高尾山 IC をノンストップで日の出 IC まで約 40 分と予想以上に早く通過し、永田橋近くで保全活動現地に向かう多摩川福生市の皆さんと永田橋近くで合流する。

堤防上を約 5 分程度上流に向かい樹林帯の間を河原に入っていくと直ぐに造成された種子供給源となる圃場が現れる。明治大学・倉本教授の説明によると種子供給源は河原から少し高台にあり、5 年に一度くらい冠水する場所で河原のカワラノギクが増水などで絶滅した時の種子供給場所になっているそうである。



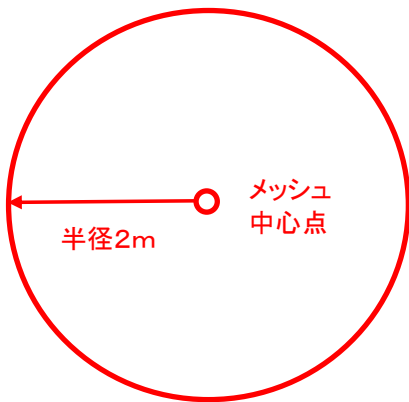
・ 種子供給源の圃場説明される倉本教授

・ 種子供給源の圃場全景

供給源としての圃場に開花したカワラノギク個体数は数えられるほどに少なく、近いうちに再造成を考える必要があるとのことであった。昨年 (平成 25 年) 訪れた鬼怒川のカワラノギク保全場所でも造成後 10 年で再造成したとお聞きした。



- ・ A工区（調査区）での開花調査の説明
 - ・ 他の植物と競合して咲くカワラノギク
- 調査区域に到着すると“花が咲いた株のカウント調査”の説明がされた。
 調査内容は開花数、ロゼット数、ミックス数について25区画（全149区画）推定。
【カワラノギク開花調査結果】



メッシュの中心点から半径2mの円内(数えやすく角度を区切る)に生えているカワラノギクの「開花個体」「ロゼット」「ミックス」それぞれの株数を数え記録し推定する。

分担して測定した25区画の調査数合計は、開花個体：924株、ロゼット：4812株、ミックス：132株だった。全区画は測定区画の約50倍なので開花数（開花+ミックス）1056株×50＝約52,800株と推定される。同様にロゼット数は約240,600株推定となる。

*ミックス個体は開花株の根元にロゼットが生育したもの。倉本教授コメントでは、開花した株が枯れると同時に枯れるなどして生き残る個体数は少ないとのこと。



・自然アカデミー野村さん



・さがみ地域協議会新井さん



・ミックス



・調査区画目印と区画 No



・2 m範囲内の個体数調査

(2) 倉本先生からレクチャーを受ける。

開花調査を終えた後、永田橋下に移動して倉本教授から「桂川・相模川流域協議会、カワラノギクを守る会」参加者に向けて多摩川の保全活動について説明され、参加者からの質問にも丁寧に答えて頂いた。その後、河原で和やかに昼食をとった。



・レクチャーされる倉本教授



・礫河原（玉石）に自生するカワラノギク



・カワラバッタが間近に見られる



・カワラニガナも自生している

5. まとめ

今回参加した“多摩川カワラノギクプロジェクト”多摩川の福生市永田地区では種子供給源となる圃場でのみ個体群維持のために競合する植物の除去を行っている。

河原に広がる礫河原（丸石河原、玉石河原、白洲）に芽生え、定着したカワラノギク個体については見守り、個体数を推定調査するだけであった。相模川では採取して播種を繰り返しているが、今後の保全活動について考える良い見学交流会であった。